

四旬節第4主日 (ルカ 15:1-3,11-32)

彼は我に返って言った



「何もかも使い果たしたとき」(15・14)「彼は我に返って言った」(15・17)。ロシアのウクライナへの軍事侵攻には憤りを覚えます。今週の福音朗読「放蕩息子のたとえ」を読むとき、人間の姿は昔も今も変わらないのかと考えさせられます。それは、「何もかも使い果たしたとき」「我に返って」自分の愚かさに気付くのだと思います。

愚かさに気づくのは、「何もかも使い果たしたとき」です。命令通りに動く軍隊を使い果たし、命令通りに動く政権幹部が離れ去ったとき、彼は我に返ってくれるのかも知れません。今日は、ウクライナとロシアの平和を願って、「ロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉獻する祈り」を唱えます。10分以上かかる祈りですが、沈黙のうちに、静かに心を合わせてお祈りください。

(カトリック中央協議会ホームページより掲載)

<https://www.cbcj.catholic.jp/2022/03/24/24408/>

四旬節第5主日(ヨハネ 8:1-11)